

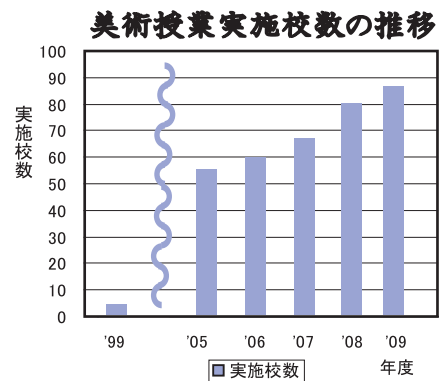


教育支援(美術)

参加校追跡調査・美術教材配布

プロジェクト対象校にアンケート調査を実施し、美術授業や配布した画材の使用状況を調査しました。なお、2009年度の美術プロジェクト参加校数は、87校(小学校80校、小学校教員養成学校7校)。

学校では画材を共同で使用し管理されていますが、全体的に画材の管理が難しいという印象も受けました。中には、画材を紛失している学校があったり、パレットが壊れてしまっていたりする学校も見受けられました。また、画材を使わずにそのまま保管している学校もあり、画材の使用法や管理方法を繰り返し伝える必要性もあるようです。また、学校全体で画材を使用するためには画材数が足りない等の意見もありました。



1校2万円の美術教材支援を会報等で呼びかけ、約70校の学校に画材を配布しました。写真はタケオ県トロバエントロバエク小学校での贈呈風景。

教員養成学校 教員対象 美術トレーニング

12月8日から12日の5日間、トレーニングを実施しました。

5日間のワークショップの前半3日間は基礎的な内容、後半の2日間は発展的な内容とし、レベルの高い王立芸術大学既卒者は後半2日間を参加対象として招待しました。トレーニングの講師は、日本画家中村豪志、ひろみ両氏と当会契約スタッフ2名が担当しました。



教員養成学校 生徒対象 ワークショップ

本年度は昨年度と同様に教員養成学校(TTC)生徒対象の絵画ワークショップを実施しました。1回目は、7月に2日間、対象はTTC1年生の生徒で、折り紙や絵画、工作の基礎を内容として取り入れました。(コンボンチュナン県、ブンペン市、カンダール県、コンンスプー県、シハヌークビル県の計5地域)

次は10月に2日間、絵画展の出展作品の制作に重点を置き、2年生の生徒を中心に行いました。(ブンペン市、カンダール県などの計7地域)

小学校教員養成学校 美術教育テキスト案作成

日本画家中村豪志、ひろみ両氏の協力を得て、当会契約スタッフが美術テキスト案を作成しました。内容として、デッサン、構図、色彩、折り紙等を掲載しました。本年度のTTC教員対象美術トレーニングで試用し、アンケート等で参加者からのテキスト案に対する意見を聞きました。今後、より分かりやすく、実践の場で効果的に使用されるテキストに改良していきます。

専門家派遣

今年度は日本画家の中村豪志・ひろみ氏を年間2回派遣しました。第1回目は、6月に7日間派遣し当会契約スタッフとの美術教育テキスト案の打ち合わせ、タケオ県トロバエントロバエク小学校の絵画授業見学、タケオ県小学校教員養成学校生徒対象美術ワークショップ2日間、タケオ県リエイボー小学校絵画授業見学を行いました。

第2回目は、11月～12月に16日間派遣し、絵画展作品審査、TTC教員対象美術トレーニング5日間を行いました。

第8回絵画展

JHPの絵画展は、
①教員や子ども達だけでなく、教育関係者、地域住民に美術教育をより身近に感じてもらい、その普及につなげる。
②美術教育のみならず、子ども達の学校教育への参加意欲を高める。
③想像力、創造力を伸ばす。
ことを目的に開催しています。

開催地はブンペン市、カンダール県などの6地域で、本年度は、小学校61校、TTC6校、当会が設立、支援しているCCH(幸せの子どもの家)が参加し、計2,597点の作品が集まりました。また、日本の小中学校から88点応募がありましたが、審査の結果、両国の全作品から198点の作品を選び、展示しました。

本年度は、低学年(1～3学年)の作品も広く募集しましたが、まだまだ低学年には絵画は難しいという考えが強く、高学年の作品が多く集まりました。しかし、低学年の作品には、色の塗り方や、構図の面白さが目を引くものがありました。

3月24日には、受賞者を対象として王宮を訪れ、写生を行ったり、ブンペン市内をバスで回り、思い出に残った場所をスケッチさせたりしました。3月25日には受賞者の更なる絵画活動への意欲を高め、関心を持たせるように、ブンペン市教員養成学校のJHP建設の大講堂で表彰式を開催しました。→右欄「来場者感想」参照



展示された絵を見ながらさっそく自分たちでも描いてみます



第8回 カンボジア絵画展表彰式

来場者感想

JHPの絵画展で展示されている素晴らしい作品を鑑賞する事で、芸術を通して自分を表現することの大切さを改めて感じました。悲しい時、私は絵を描くと気持ちが晴れ晴れします。(カンダール県小学校教員養成学校 2年生 男性)

ぼくは、絵画展にとっても興味があります。なぜならとても上手な、意味の深い絵を見ることができるからです。ぼくの作品がいつか展示されるといいなと思います。(カンダール県アヌワット小学校2年生 男性)

今回、アキャモヘイセイ小学校で開催されたJHPの絵画展を参観する事ができ、児童をはじめ、全ての教員が嬉しく思っています。私は、絵画展に展示されている全ての作品が素晴らしいと思いました。そして、今後それぞれの学校が経験を共有し合い、いずれ私たちの学校でも絵画展を実施してみたいと思います。

(コンンスプー県ソペアモンコル小学校長 男性)



2009年度 第8回カンボジア絵画展作品集表紙

学校レポート

リエイボー小学校では、1クラス当たり週1回(1時間)美術授業が実施されています。指導教員は図書館司書のトワイ レアスマイチャントゥリア教員(写真)。授業内容は、「絵画」が主で、子ども達の想像力を培いたいという教員の思いで、フリードピックで描かせる事が多いようです。調査時は子ども達も真剣に絵画活動に取り組んでいました。学校では、クレヨンを多く使用しているようです。クレヨンである程度色塗りができたら絵の具を使わせたいと話していました。しかし、1時間という限られた時間の中で絵の具の使用と片づけの時間に課題があることがわかりました。尚、同小学校では、美術授業は図書館で行われており、沢山の折り紙の飾りが展示してありました。



トワイ レアスマイチャントゥリア教員



真剣に絵を描く子ども達